

# 教育総合類型通信 第1号

## 秋のふれあい農園

令和元年 10 月 30 日

発行人 県立西宮甲山高等学校  
教育総合類型推進委員会

10 月 16 日(木)の中間考査の最終日、恒例の「ふれあい農園」が開催されました。安井保育園の子どもたちと教育総合類型の1年生、2年生と一緒にサツマイモ掘りをしました。このサツマイモの苗は、本校の「農園」に類型の生徒たちが5月に植えたものです。この日は、高校生二人と保育園の子ども一人で一組となって活動しました。バス停で生徒たちが出迎えて、バス停から農園前まで連れていき、そこでおやつを食べて打ち解けた後、農園に入りました。



なかなかサツマイモが掘れない子どもたちのために、生徒たちは懸命にサツマイモのあるところを見つけ出し、子どもたちに「一緒に掘ろう」と誘っていました。普段は虫を怖がる生徒たちも、保育園の子どもたちがカマキリなどの昆虫を見つけたときには一緒に喜んでいて、頼もしい姿を見ることができました。5月の「春のふれあい農園」のときに、類型の生徒たちで土をしっかりと

耕したことで土が固まらずにサツマイモがすくすく育ち、丸くてきれいな形になりました。また、9月に類型の生徒たちが養分を奪う雑草をほぼすべて引き抜いたことで、サツマイモに十分な養分が行き渡り、大きなサツマイモがたくさんありました。掘り出したサツマイモは、保育園の子どもたちと生徒たちが持ち帰っています。サツマイモ掘りの後は、保育園の子どもたちと1年生と2年生が交じってじゃんけん列車などの遊びをしました。帰り道では、おんぶしたり、一緒にジャンプしたり、打ち解けた様子を見ることができました。また、保育園の先生方の子どもたちとの関わり方から、生徒たちも学ぶことがたくさんあったようです。以下、生徒の感想からの抜粋です。

・私たちが少し工夫するだけで、なかなか芋を掘ろうとしなかった園児の子の反応が良い方向へ変わるんだなと思いました(1年生)。

・一番うれしかったのは、最後に帰るとき、ぎゅっと抱きしめてくれたことです(1年生)。

・草抜きは大変でしたが、子どもたちが喜んでいる姿を見ると、やって良かったなと思いました(2年生)。

